

会議報告書

会議名	令和7年度第2回放課後対策推進審議会				
日時	令和8年1月29日(木) 14:30~15:30				
場所	長崎市立小島小学校				
出席委員	與賀田千春 小崎修三	末永功 吉岡優一郎	渡邊愼太郎 久米初	松林廣美 小西祐馬	今田怜菜
出席職員 (事務局)	久保こどもみらい課長 大川こどもみらい課主任指導主事		平尾こどもみらい課係長 北村こどもみらい課主事		
議題	「長崎市の放課後の取り組みについて」				
概要	<p>(1) 小島小学校区放課後子ども教室「わくわく」見学 事業者より「わくわく」についてご紹介いただき、実際のこどもたちの様子を見学</p> <p>(2) 議事「長崎市の放課後の取り組みについて」 事務局より長崎市放課後子ども教室の概要を説明</p> <p>(3) 質疑応答</p>				
質疑応答	<p>(委員) 本日の事務局説明は「放課後子ども教室」について述べているが、放課後といえば「学童保育」では。学童保育とのつながりはあるのか。</p> <p>(事務局) 放課後子ども教室はすべてのこどもを対象としており、放課後児童クラブ(学童保育)に通わないこどもの居場所、こどもの体験の場所となっている。放課後児童クラブは、共働き世帯などのこどもが通うことで、小学生の約4割の児童が利用登録をしており、利用児童は増加している。</p> <p>放課後対策推進審議会は、放課後対策の総合的な審議を行うもので、新たに委員になられた委員各位におかれましては、教室やクラブのほかにも放課後の居場所があればそれぞれの立場からご意見いただきたい。</p> <p>(委員) こどもの居場所ということであれば、長崎市と連携した取り組みや、いろいろなイベントがあるので、よかったら見学に来てほしい。</p> <p>市の放課後対策は、公立が中心、私学も含めて検討していただきたい。</p> <p>また、9月議会で、放課後子ども教室の担い手不足について答弁があった。担い手不足について、その後の進捗はどうか。</p> <p>(課長) 担い手不足について、長崎市子育て応援情報サイト「イーカオ」にこども教室のPRやスタッフの募集等を掲載するなどして周知を図っている。また、子ども教室の活動回数が少ない地域に訪問し、状況を伺いながら協議した。</p> <p>(委員) 生活指導主任部会で作成する長期休業や学校外の過ごし方などをまとめた「生活のきまり」というのがある。昔ながらの地域もあれば、最近のこどもの環境に併せて工夫している地域もある。その場所その場所において、地域の特徴に合わせて取り組むのが大事であると考えている。</p>				

- (委員) 放課後児童クラブの運営に携わっている。市内ではこどもが多い地域と認識されているが、それでも少子化の影響を受けていると実感している。放課後児童クラブにおいても、担い手・職員の確保が課題である。
- (委員) 放課後子ども教室を見学して、気になったことがある。こどもの入退室管理はどのようにしているのだろうか。備品は、学校の備品であれば、学校とのとりきめはどうなっているのか。地域のボランティアで取り組んでいる様子だが、こどもと接するスタッフの資質や、こどもの安全管理はどうなっているのか。
- (委員) こども園で、放課後に希望する小学校児童の受け入れを実施しているが、連携の大事さを実感している。ケガはもちろん、学校であったトラブルやこどもの状況を情報共有することはこどもの支援において大切である。
- (委員) 先日実施した放課後子ども教室であったことだが、椅子にもたれて過ごしていた児童が「脇のあたりが痛い」と訴えてくることがあった。職員室にいらした担任の先生に相談し、保健室で見てもらうことになった。椅子の背もたれの当たり方が痛みになったのではないかとということで、大事には至らなかった。放課後子ども教室の取り組みについて、学校側も非常に協力的で、備品の保管場所まで用意していただいている。とてもやりやすいと感じている。
- (委員) 忙しくなかなか電話に出られない保護者でも、学校の電話番号なら電話に出てくれるということもある。放課後子ども教室で急ぎの電話があれば、学校から保護者へ電話をかけることもある。教頭が主となって、学校は放課後子ども教室と連携して取り組んでいる。
- (事務局) 市委託の放課後子ども教室においては、コーディネーターが学校・地域をつなぐ役割を担っている。放課後子ども教室にくるこどもたちの参加こども名簿を作成し、なにかあれば保護者・学校に連絡する体制を整え実施してもらっている。
- (委員) 地域において、こどもが自由に走り回れる広い場所がなく、校庭の利用について、PTAと学校で話し合いをしているが、なかなか進まない。居場所づくりの推進においては、地区によって隔たりがないように進めてほしい。
- (委員) 放課後子ども教室は、放課後児童クラブを利用しないこどものための取り組みという一面があると理解した。放課後児童クラブは、仕事として支援員が勤務しているが、放課後子ども教室はボランティアによる。こども安全面が確保されているか心配はある。

	<p>(委員)</p> <p>放課後子ども教室について「次はいつ開催するの？」と尋ねてくるほど、こどもたちは楽しみにしている。</p> <p>放課後の過ごし方が変わって、最近は公園で遊ぶ子も限られている。土曜日や休みの日に学校を開放するのも、学校の負担がある。</p> <p>課題はあるが、「こどもにどういう大人になってほしいか」を考えて、取り組みを工夫していくことが大切である。</p> <p>(委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>中学生や高校生にむけた放課後対策はないのか。</p> <p>放課後子ども教室は小学生を主体としているが、中学生が利用を制限しているわけではない。しかしながら、中学生の登録児童はほとんどない。市としては、中高生向けの居場所づくりも検討していきたい。</p>
--	--